

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』をお世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

Windows7のサポート終了と、その延命方法を考える

当「DDK News Letter」の昨年6月号(No.35)でもお伝えしましたが、今お使いのパソコンのOSがWindows7の場合、メーカーであるマイクロソフトからのサポートが来年1月17日で終了になります。これ以降、もし、Windows7にセキュリティ上の重大な欠陥があったとしても、今までのように無償で修正ファイルの提供を受

けることができなくなります。

本来なら、セキュリティの観点からもパソコンを最新のOSであるWindows10に乗り換える必要がありますが、どうしてもOSを乗り換えられない事情がある場合もあります。このような場合、どのような対策が考えられるか検討してみます。

Windows7の有償サービスの利用

新たに2023年1月まで「拡張セキュリティアップデート(ESU)」が提供されることが発表されました。このWindows7 ESUを利用するには、デバイス単位でライセンスが必要となり、年ごとに価格が増加していきます。

対象となるのはボリュームライセンスのWindows7 Professional/Enterpriseを購入しているユーザーで、OS単体やプレインストールされたPCを購入している一般ユーザーは利用できないという非常に厳しい条件となっています。

- ① 拡張セキュリティアップデート(ESU)のサービス内容
→セキュリティ更新プログラム
- ② 拡張セキュリティアップデート(ESU)の費用
(予想価格)

Windows7 有償サポート(ESU) 期間と費用	1年目	2年目	3年目
Windows 7 Enterprise	\$ 25	\$ 50	\$ 100
Windows 7 Professional	\$ 50	\$ 150	\$ 200

セキュリティ対策ソフトで延命使用の錯覚

マイクロソフトによる貧弱性への対応やセキュリティ対策ファイルの提供がなくなった場合でも、現在使っているトレンドマイクロやマカフィーなどのウイルス対策ソフトでセキュリティが守れるのではないかと錯覚してしまいがちですが、OSシステムそのものに欠陥がありセ

キュリティの穴が開いてしまっていると、防ぎきれません。槍や刀で攻めてきた敵兵を城壁で守る事はできていても、ダイナマイトを仕掛けられたらひとたまりもないのと同じで、今までと違う方法で攻めてこられたらひとたまりもありません。

AppGuard を利用する

Windows7のサポート終了後、今までのウイルス対策ソフトがあまり役にたちそうにないという現実を踏まえ、それに代わるウイルス対策ソフトとして注目されているのが、次世代ウイルス対策ソフトのAppGuardです。



価格：1ライセンス 14,000円～

従来のウイルス対策ソフト「検知型」(定義ファイル、機械学習、レピュテーション、ホワイトリストなど)ではなく、攻撃の段階で脅威を遮断する機能を持つウイルス対策ソフトです。今までの検知型は、ウイルスが侵入してきた段階で駆除する仕組みとなっていますが、「脅威遮断型」であれば、Windows7に固有のセキュリティの欠点があった場合でも、そこにウイルスが攻撃してきたとしても、そのウイルスの攻撃を防御することで被害を防げます。ただ、欠点としては、ウイルスそのものを駆除する機能はありませんので、従来のウイルス対策ソフトとの併用が必要かもしれません(併用運用が可能かは別途動作検証が必要です)。